

## 環境に影響を与える関連化学物質対応

### ダイオキシン

ダイオキシンの問題は、現在大きな社会問題となっており、その発生源の一つと言われる焼却炉の管理については年々規制強化が行われています。ニチレイグループでもダイオキシン特別措置法の規制対象能力を有する焼却炉を所有しており、焼却に際しては、管理基準、排出基準を遵守し運転をしております。しかしながら、このような状況を重く捉え2001年度は低温物

流事業で所有する焼却炉の使用停止を実施しました。

また、2002年度12月より排出基準などの規制強化が予定されており、食品事業で現在稼働中の3基のうち、2基については停止の予定です。

1基については焼却量が大きく、規制強化に向け設備改修を実施済みであり、排出基準もクリアしていることから使用継続予定

### PCB

現在、PCB含有のコンデンサーなどを約300基所有しており、未使用のものについては法に定められた基準に従い保管を実施すると共に、保管状況の届出を実施しています。2001年度は届出初年度であったことから、届出状況確認を

実施しました。今後は法で定められた15年後までの処理に向け、処理施設の整備状況をみながら処理計画を策定し、計画的な処理を進めていきます。

### フロン

低温技術が事業活動の中心となるなか、冷蔵・冷凍設備の冷媒として使用していた特定フロンによるオゾン層破壊を重要な問題として捉え、1996年3月末に営業用冷蔵庫、製造設備で使用する特定フロンを全廃しました。現在は、主な使用冷媒である指定フロン(R-22)の全廃が予定されるなか、オゾン層破壊係数がゼロの冷

媒を使用した冷却システムのテストなどを実施しております。

また、2001年度に新設した仙台南物流サービスセンターには、自然冷媒であるアンモニア(オゾン層破壊をせず、地球温暖化係数の小さな冷媒)を使用した冷却システムを採用しました。

### PRTR法対応

PRTR Pollutant Release and Transfer Register とは、「特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の促進に関する法律」のことで、人の健康を損なったり、動植物の生息や生育に支障をおよぼしたりする恐れのある化学物質

を一定量以上扱う事業者は、排出量や移動量を把握し、届出を義務付けています。食品工場、低温物流倉庫において、今年度届出対象化学物質は稼働焼却炉のダイオキシンのみとなっています。

ダイオキシン類の排出量と移動量 届出事業所の合計

大気への排出量	14.762mg-TEQ
事業所外への移動量	0.1306mg-TEQ

## 環境に配慮した容器包装使用など

### 原料の調達、商品の流通・販売時の環境配慮

ニチレイグループが環境に影響を与えているものには、製造工場などから出てくる廃棄物のように直接事業所が影響をおよぼしている物のほかに、原料の調達、商品の流通・販売によるものもあります。

特に1997年4月にスタートした「容器包装リサイクル法」や2001年5月に施行となった「食品リサイクル法」に見られるように、循環型社会形成のための取り組みは、近年の重要課題の一つとなっています。

#### 調達・流通由来廃棄物削減

冷蔵倉庫で使用するパレットのプラスチック化により、パレットの廃棄量を削減、再生利用を推進しています。

食品工場では、液体原料の受け入れタンクの設置などにより、個別少量容器で納入されていたものを、ローリー車での一括納入に切り替え、容器の使用量及び廃棄量の削減につなげるなど、流通形態の変更による廃棄物削減の取り組みを検討、実施しています。

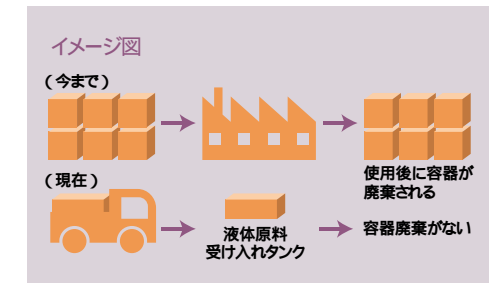
#### 容器包装対応

省資源及び廃棄時の負荷低減の観点から以下の取り組みを実施、検討しています。

- 容器包装重量削減
- 再生紙の使用
- 廃棄時負荷低減
- リサイクル適性の向上

#### 実施事例

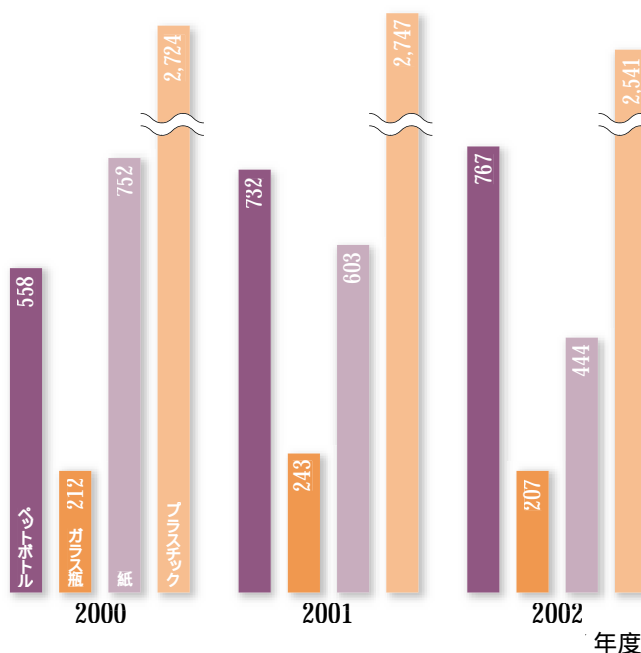
- プラスチック包装フィルム、トレイの薄肉化
- ギフトセットでの再生紙使用
- 商品への識別表示、材質表示によるリサイクル情報の提供



#### 容器包装リサイクル法義務履行状況

2001年度の委託料金は、総額で55,767千円(当初予定では105,540千円を予定しておりましたが余剰金発生により減額)となりました。2002年度については96,767千円の支払いを予定しております。

家庭用容器包装販売重量 (トン)



再商品化委託料金 (千円)

